

ムシカ・ポエティカより皆様へ 早春のごあいさつを

春の気配に包まれた今日このごろ、皆様いかがお過ごしでしょうか。混沌の世界情勢に暗澹たる思いではございますが、こうして皆さまにお便り出来ますことを幸いと致さねばなりません。

早速ですが、演奏会のご案内から。

'25年4月9日[水]18:45 東京カテドラル聖マリア大聖堂
<受難楽の夕べ> (チラシ同封)

第2次★シュッツ全作品連続演奏★第1回

シュッツ《小教会コンチェルト集 I,II》より

及川豊 TI・板谷俊祐 TII

淡野太郎 BI・浦野智行 BII・中川郁太郎 BIII

Bc[Orgel]◆椎名雄一郎

シュッツ《十二の宗教歌》より『ニカイア信条』

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 指揮◆淡野弓子

シュッツ『ルカ受難曲』 [独唱・4声合唱 ア・カベラ]

福音史家◆及川豊 イエス◆浦野智行

ピラト◆中川郁太郎 ペトロ◆板谷俊祐

下女◆笠恵里花 下僕I◆武藤和明 下僕II◆平岡一幸

犯罪人◆依田卓 犯罪人II◆淡野太郎 百人隊長◆中村誠一

~Pause~

リスト『十字架の道行』 <十字架路・十四の唄>

キリスト◆中川郁太郎 ピラト◆浦野智行

重唱

◆今村ゆかり◆柴田圭子◆笠恵里花◆依田卓◆及川豊◆浦野智行

Orgel◆椎名雄一郎

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 指揮◆淡野太郎

¥4000 ¥2500(学)

菊田音楽事務所042-394-0543

www.musicapoetica.jp

いよいよ今年から第2次「シュッツ全作品連続演奏」に着手することとなりました。シュッツ音楽の比類のない完成度のもとより、彼の生み出した音楽をさらに深く知り、それが人間社会においてどのような働きを為すのかを考えながらの実践です。

人間の言葉と声を大切に考え、数の比率を基盤とするリズムでそれを語り歌わせたシュッツに学ぶことは多々残されています。私たちにとってはいささか大きすぎる課題とは申せ、学びの道の継続を願って再度の挑戦となりました。これからの十数年を、これまで同様、どうかよろしくお願い申し上げます。

各曲の輪郭につきましては、若干の説明をチラシに記しました。ご参照いただければ幸いに存じます。

追悼

春宮哲様

長年シュッツ合唱団のバスのメンバーでいらした春宮哲さんは、心臓を悪くされご自宅で療養中でしたが、昨年9月21日、亡くなられました。暖かいお人柄と豊かな声で団を支えてくださいました。心とむ思いの出ばかりですが、そのうちの一つを記します。

2000年11月に行われた<レクイエムの集い>で演奏したブラームスの《ドイツ・レクイエム》では、やはり今は亡きアグネス・ギーベル先生がソプラノ・ソロを歌ってくださったのですが、先生は「腰が心配なので、誰かに支えて欲しい」といわれ、最後列のバスパートの席で歌いたいと仰ったのです。„Ihr habt nun Traurigkeit, aber ich will euch wieder sehen~ ~あなた方は今憂いのうちにあるが、私はふたたびあなた方に会う~“ 玲瓏なソプラノが響き渡りました。ギーベル先生を男性舞踊手のごとくしっかりとお支えたのは春宮さんだったのです。私は後から知ったのですが、「こんなことも起こるのだ」と驚きつつも感謝の気持ちで一杯でした。ご家族を愛され、音楽とシュッツ合唱団を大切にしてくださいました春宮さんのご安息を祈ります。

羽鳥典子様

暖かい声と品格のある歌唱で多くの同輩、後輩に慕われていた羽鳥典子さんが今年の1月18日、天へ召されました。昨年4月に急性白血病の診断を受け最新の治療を受けておられました。小康を得てお宅におられたある日、脳出血で急逝されたのです。

大学院の修了演奏では「私は野の花」を始め多くのモンテヴェルディ作品を歌われ、その後イタリアに学びました。帰国後もイタリアの友人たちをそれは大切にされていました。

「ムシカ・ポエティカ」の公演では幾たびもソリストを務めてくださいました。モンテヴェルディをはじめシュッツ、バッハ、そしてレスピーギらの近代イタリア歌曲も心に残っています。

そして、シュッツ演奏に欠かせぬピリオド楽器の話になったとき、典子さんは即座に「その楽器を作ってもらいましょう」といわれ、その場で制作家の谷口勤さんにバロック仕様のヴァイオリンを依頼されたのです。

「クラウドディア」と名付けられたそのヴァイオリンは、2008年来「ユビキタス・バッハ」の奏者二宮昌世さんの腕に抱かれ、毎回の<SDG>で大活躍しています。

暖かくなったら一緒にお食事を、との約束が果たせず、寂しい思いで一杯ですが、私たちこの世の人間が未だ知らぬ国に旅立たれたこと、何か羨ましい感じもいたします。

典子さん！どうか天翔る悠久の時を満喫なさってね。



ご報告 その1

＜レクイエムの集い＞

'24年10月18日[金]18:45 三鷹・芸文「風のホール」
「ムシカ・ポエティカ」発足40周年記念【II】

J.S.Bach 《Messe in h-Moll》

指揮 淡野太郎

S 柴田圭子/笠恵里花/宮本泰江

A 北條加奈/依田卓

T 板谷俊祐/沼田臣矢 B 浦野智行/中川郁太郎

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

メンデルスゾーン・コーア

ユビキタス・バッハ コンサートマスター石川和彦

オルガン 椎名雄一郎

バッハ時代の演奏形態であるソリストも常に合唱の中で共に歌うという方法で全曲が演奏されました。一つの曲の中で独唱、重唱、合唱の役割が細かく分けられ、その中で明確に伝えるべきパッセージ——例えばフーガの始まる部分など——は各パートのソリストが受け持ちます。この形はソリストの深い理解と実力あつての演奏法なので、容易いことではないのですが、今回はソリスト全員の惜しみない協力のもと、音楽の成り立ちが明確に伝わる演奏だったと思います。

さらに、「風のホール」のバルコニー席が活かされた演出により<Sanctus>が正面バルコニーから、<Osanna>は左右バルコニーから歌われ立体的な響きがホールを満たしました。最後の<Dona nobis pacem>では指揮者のソロで最初のテーマが歌い出され、器楽陣も声楽陣も演奏に加わるものが1人、2人と少しずつ増え、最後にTuttiとなるころには聴き手の心も演奏者と一緒に、まだ見ぬ世界平和が約束されているように感じました。音楽の力を讃え、バッハに敬意を表するのは勿論ですが、最後に心の底に響いた言葉は「神に感謝！」でした。

お聴きくださった皆様、お支えくださった皆様、本当にありがとうございました。

ご報告 その2

読書会 星野宏美著『メンデルスゾーンの宗教音楽』

教文館 本郷教会集会室 午後7時～9時

読了です。お蔭様で第1回（5月21日・12名）、第2回（7月23日・11名）、第3回（9月24日・10名）、第4回（11月19日・13名）、第5回（1月21日・13名）の全5回が無事終了いたしました。

テーマが宗教音楽であったからでしょうか、この集いにはいつも祈るような気持ちが漂っていました。音読によって個人の思いや熱意が直に伝わり瞬間瞬間がかけがえのないものでした。

5月と11月には、メンデルスゾーン基金東京支部長のマズーア・偕子さんもドイツから飛んできてくださり、ライブソフィの新しい情報に場が賑わいました。

最終日の1月21日、最終ページに記された「星野宏美」が読み上げられた瞬間、全員が大拍手！それは感動的でした。最後は出席者が一人ずつ自己紹介をして、皆様の並々ならぬメンデルスゾーンへの関心を知り、これまた豊かなひとときでした。しかしなんとも忘れてならないこと、それは、著者である星野宏美教授が毎回ご出席くださったことです。本当に嬉しいことでした。

感謝

1984年2月4日に発足した音楽グループ＜ムシカ・ポエティカ＞は昨年2回の記念コンサートと共に創立40周年を記念することが出来ました。私事ではございますが淡野弓子は去る2月4日満87歳となりました。

敬愛するハインリヒ・シュッツ（1585/14.Okt.-1672/6.Nov.）が87年と3週間をこの世に生きたという、この数字は私の生きる目標の一つでもありました。私は今、87歳3週間を過ぎようとしています。不思議なことに非常に晴れ晴れした気分、新たな勇気に満たされ、今までおんぶにだっこ状態であったシュッツ師匠に少しでも恩返しをしなければという気持ちが湧いてきました。

そして勿論、この現世において、どれほど多くの方々にご協力頂いたことでしょうか。師、音楽学者、評論家、演奏家はもとより、実際に献金、ご芳志、楽器貸与などなど幾多の温かいお心に支えられての日々でございます。そして毎回のコンサートにお越しくださいます皆様、ただただ嬉しく、有り難く、深く御礼申し上げます。



本郷教会 Soli Deo Gloria 2025

＜ただ神にのみ栄光＞～讃美と祈りの夕べ～

日本キリスト教団 本郷教会礼拝堂 [無料]
都内杉並区上荻4-24-5 JR 西荻窪より北へ徒歩11分
左側タバコ店の十字路を右へ1分 Tel:03-3399-2730

聖書朗読：宮崎新 本郷教会牧師

合奏：ユビキタス・バッハ

合唱：ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

&メンデルスゾーン・コア有志

指揮：淡野太郎

4月20日(日) 18:00 Vol.429

復活祭第3日のためのカンタータ

J.S.バッハ カンタータ第145番

《われ生く、わが心よ、汝の喜びのため》ほか

5月11日(日) 18:00 Vol.430

復活祭後第3日曜日[JUBILATE]のためのカンタータ

J.S.バッハ カンタータ第146番

《我ら多くの患難を経て》ほか

5月25日(日) 18:00 Vol.431

昇天祭のためのカンタータ

J.S.バッハ 昇天祭オラトリオ BWV11

《神をそのもろもろの国にて頌めよ》ほか

6月8日(日) 18:00 Vol.432

聖霊降臨祭第1日のためのカンタータ

J.S.バッハ カンタータ第172番

《響け、汝ら歌よ》ほか

6月29日(日) 18:00 Vol.433

洗礼者ヨハネの祝日(6/24)のためのカンタータ

J.S.バッハ カンタータ第167番

《諸人よ、神の愛を讃えまつれ》ほか

7月13日(日) 18:00 Vol.434

三位一体後第4日曜日のためのカンタータ

J.S.バッハ カンタータ第24番

《混じり気なき心》ほか

8月17日(日) 17:00

本郷教会様サマーコンサート2025

J.S.バッハ カンタータ第71番

《神はいにしえよりわが王なり》ほか

☆☆☆

Musica poetica 2025

＜レクイエムの集い＞

10/31(金) 19:00 三鷹市藝文センター「風のホール」

☆☆☆

朝日カルチャーセンターのご案内

[立川教室] 042-527-6511

ハインリヒ・シュッツ一人と音楽 其の十四

シュッツの生涯を概観する

～作品とともに～

講師 淡野弓子

シュッツ作品の観察も峠を越し、残り僅かとなりました。ここで一度シュッツの生涯を通観してみようと思います。置かれた状況で、その都度シュッツが考えたこと、信じたこと、使命感などが浮き彫りにされることでしょう。

イタリア音楽に対するあくなき探究や、戦乱を逃れての異国への旅など、故国を離れることの多かったシュッツでしたが、常に実り多き旅の成果を携えての帰国でした。これらの考察を通して、さらにシュッツその人を深く知りたいと思います。(講師・記)

*楽譜その他の資料は会場に用意いたします。

■2025年4月12日(土) 5月10日(土) 6月14日(土)

10:30～12:00

朝日カルチャー立川教室(JR立川駅構内 ルミネ 9F)

受講料:3回 10989円(会員)/設備費495円

入会金5,500円(70歳以上は入会金無料) 設備費:495円

申し込み:朝日カルチャー立川教室 042-527-6511

[横浜教室] 045-453-1122

宗教歌を歌う

～11世紀から20世紀を概観し様式を辿る～その1

講師 淡野弓子

これまでは、3回連続の講座において、同一の作曲家の作品を取り上げてきましたが、今季は心機一転、およそ10世紀に亘るヨーロッパ各国の宗教歌を俯瞰し、歌ってみようと思います。

単旋律の讃歌を数多く遺した11世紀の女性神秘家ヒルデガルト・フォン・ビンゲンから現代の霊性を静かに表出した20世紀の作曲家アルヴォ・ペルトまでの9人による名作を集めました。

各作品の相違点と共通点を観察しながらの興味深い時を、ご一緒にいかがですか?(講師・記)

[曲目]

H.v.ビンゲン O virgo Ecclesia おお聖母の教会よ

C.モンテヴェルディ Ego flos campi 私は野の花

H.シュッツ O Jesu, nomen dulce おおイエス、甘き御名

D.ブクステフーデ Clavos pedum/Dulcis Jesu 御足の釘/愛するイエス(イエスの肢体)

F.メンデルスゾーン Es ist genug もう十分です(エリア)

J.ブラームス O Tod, wie bitter おお死よ、なんという
苦しみ
G.フォーレ Pie Jesu 慈愛深きイエスよ (レクイエム)
J.ラングレ Sanctus 聖なるかな
A.ペルト Vater unser 主の祈り

*楽譜その他の資料は会場に用意いたします。

■2025年4月14日(月) 5月12日(月) 6月9日(月)
12:00 ~ 13:30
■ルミネ横浜8階(横浜駅東口)
■受講料:3回 10989円(会員)/設備費:495円
入会金5,500円(70歳以上は入会金無料)
■申し込み朝日カルチャー横浜教室 045-453-1122



シュッツ合唱団へのお誘い

テーマ:シュッツ音楽の研究・実践・啓蒙

目標:2025年より15年計画にて<第2次シュッツ全作品連続演奏>が始まります。新鮮な気持ちで、忍耐強くシュッツに取り組んでくださる方を募集します。

日時:毎週水曜日 19:00~21:30

場所:日本キリスト教団本郷教会

*杉並区上荻4-24-5 JR西荻窪駅北口より北へ徒歩10分
左側タバコ店の十字路を右に入り1分。左側。

内容:1) 倍音の法則に基づく和音発声の習得
2) ドイツ語、ラテン語、イタリア語での歌唱
3) 新・旧約聖書の語る物語、詩文、箴言などの内容を理解し、それらに相応しい表現技術を学ぶ

指導・指揮:淡野太郎(常任指揮者)/淡野弓子(随時)

シュッツ作品の教える音楽の根幹に関わる法則は古典派、ロマン派、そして現代音楽に至る数々の名作の礎として生き続けています。どの時代の音楽であれ、シュッツを知ることによって培われた技術、音楽性は必ずやプラスの方向で未来の音楽生活を支えることでしょう。特に音楽の演奏を志す若い方々のご参加を願っております。参加ご希望の方はメール:

yumiko@musicapoetica.jpにご一報ください。インタビューと視唱をお願いしております。

メンデルスゾーン・コアへのお誘い

メンデルスゾーン・コアは Felix Mendelssohn=Bartholdy (1809-1847) の合唱曲を演奏、紹介することを活動の柱とした合唱団です。彼の合唱曲は非常に優れた作品ばかりであるのにも関わらず、知名度の点で相当の遅れを取っており、一部分しか知られていないが故に、作曲家としてのメンデルスゾーンの正当な評価の妨げと

すらなっているといっても過言ではありません。

メンデルスゾーン・コアはそれらの作品にスポットを当て、世間に紹介するとともに、その素晴らしい世界をひとりでも多くの方々に触れていただき、共有したいという目的のもと、2006年に創立されました。これまでに主にハインリヒ・シュッツ合唱団・東京との合同という形で、メンデルスゾーンの2大オラトリオ《エリヤ》及び《パウロ》の他、ハイドン《天地創造》、ベートーヴェン《交響曲第9番》、10数曲の合唱小品、またメンデルスゾーン以外にもシュッツ《ダヴィデの詩編曲集》、バッハ《マタイ受難曲》、他シューマンやディストラの合唱曲等を演奏し、好評を博しております。

長期的な目標として、2~3年毎に先述の《エリヤ》《パウロ》を交互に演奏していくことを活動の柱とし、その間の期間にメンデルスゾーンの知られざる合唱曲、また近辺の時代(主に後期古典派からロマン派、時折バロックや近代も)の合唱曲を積極的に演奏していきたいと考えております。

日時:毎週土曜日 18:30~21:00

場所:日本キリスト教団本郷教会

2025年公演はメンデルスゾーンを中心とする<19世紀合唱音楽>をテーマとしたプログラムを予定しています。

★練習にあたっては、「歌う側も聴く側も健康になる音」をモットーに、特に和音の響きを重視、また発声法、発音等、きめ細かく指導致します。沢山の方々と共に勉強、演奏していきたいと願っております。音楽歴、年齢等は不問、随時募集しております。メンデルスゾーンの素晴らしい合唱曲の数々をご一緒に体感してみませんか。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。参加ご希望の方は、メール:

taro@musicapoetica.jpにご連絡ください。

メンデルスゾーン・コア 指揮者 淡野 太郎



お願い■今後この案内をメールでご希望の方はお名前とアドレスをメール:yumiko@musicapoetica.jpに、必要とされない方は[送信不要]として以下の連絡先にお名前をお知らせください。

FAX:03-3998-5238

郵送:176-0025 練馬区中村南2-24-12 淡野弓子宛



では皆様、どうか御身お大切に。

2025年3月

ムシカ・ポエティカ 淡野弓子